千塚池オニバス群落のその後

橋 本 卓 三

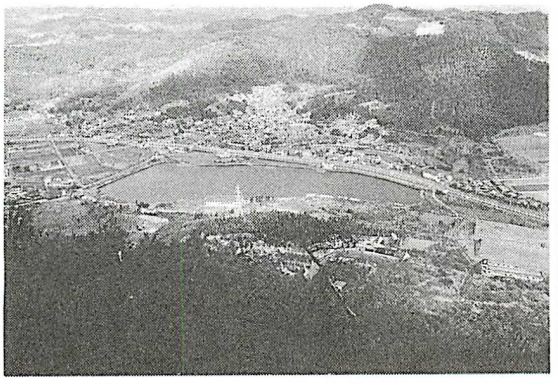

写真1　1987. 1. 3.

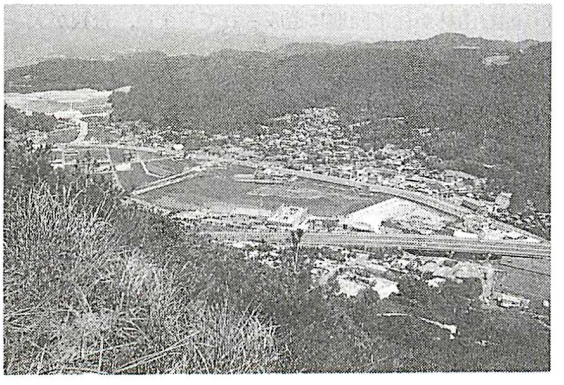

写真2　1995. 8. 20.
すぐ傍を山陽自動車道が通る様になった池の南岸では，建造物が増えた．コンクリート護岸の埋め立て地はグランドとして放置されている．写真左上の造成地には，八田原ダムの稼動に合わせて大規模浄水場（福山市・神辺町共管）が建設中．

広島県の東南端に位置する福山市は，1991年に千田町の千塚（チヅカ）池（約4.4ha）に自生するオニバス群落を，市の天然記念物に指定した．

この池を1986年から観察しているが，北岸の一部に以前からあるスイレンの小群落に隣り合って，88年にはハスが出現した．このハスは数年の内に急速に拡がって，今では池のかなりの部分を占めるに到っている．1992年，及び93年には観察の機会がなかったが，94年の夏は異常な少雨にもかかわらず，極端な水位の低下はなく，オニバスの良好な生育が見られた．

ところが，同年の暮れに池を訪れて見ると，市によって公園の造成工事（11/18～3/20）が進行していた．堤側がかなりの範囲に渡って1m位掘り下げられ，池尻の部分（全体の約1/4）が埋め立てられていた．干し上げられた池底には枯れたオニバスの株とドブガイ，タニシの殻が点々とし，岸に沿って群落の見られたガガブタは凍結して腐り，ほとんどの殖芽も乾燥枯死していた．翌1995年には南岸を中心に，ヒシと共に多数のオニバスが生育した．しかし，ガガブタはほぼ消滅し，所々にわずかな浮葉が見られたのみであった．96年8月には，前年と同様なオニバスの密生が観察されたが，ガガブタは全く確認できなかった．

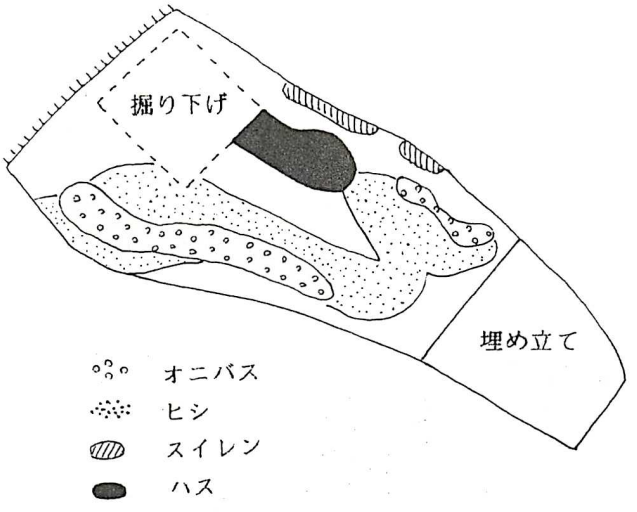

図1　千塚池の植生概況（1995年8月）

千塚池は市街化区域に隣接しており，今後も周辺の大

きな変化が予想される．今回の埋め立ての経緯や，その原案について筆者は知らないが，工事途中で県の環境部局からの圧力があり，その結果としての現状であると伝え聞いている．なお，福山市加茂町の菱原池には，今でも隔年的なオニバスの発生があるが，1989年以降は池を取り囲む山林が住宅団地に造成されてしまい，景観が大きく変わった．

写真３　1995. 8. 20.
堤寄りの南岸より．オニバスと，それを取り囲むヒシの群落．対岸はハス．

福島県猪苗代湖のミズスギゴケ群落

星　一彰
（福島県自然保護協会）

福島県猪苗代湖北東部天神浜に打ちあげられている球形のコケ塊が，1935年天然記念物に指定（国指定）された．これはミズスギゴケ（*Dicranella palustris* f. *submersa*）が，深さ２～３ｍのやや粘土状になった湖底で波にゆられて塊状になったものであり，別名，毬藻（マリゴケ）とも呼ばれている．その後しだいに姿を消し，まぼろしの植物とされてきた．

1972年11月湖北西部蟹沢浜に打ちあげられ生育が確認され，その後確認されないできた．

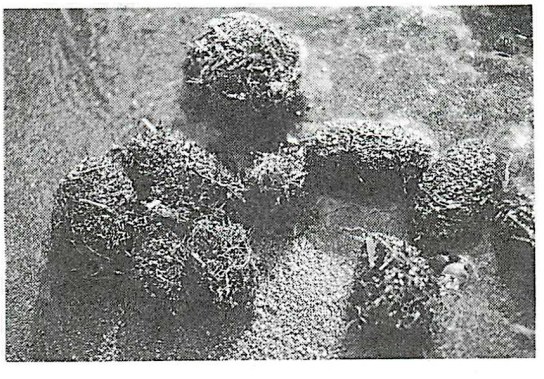

写真１　猪苗代湖のミズスギゴケ群落（1996年４月21日，湖北東部松橋浜にて）

本年４月湖北東部，松橋浜から天神浜にかけて，湖岸の砂浜約300ｍに，写真のような大小の塊状になったミズスギゴケを確認することができた．その個体数は約２万７千個（福島県教育庁文化課発表）とされている．

なぜ本年度になって，このような群落が確認できたのであろうか．全く不明であるが，本年は特に北西の季節風が強く，低温続きで積雪量が多かったことなどが関係していると考えられる．